

戸山サンライズ

2008

6・7月号

お知らせ

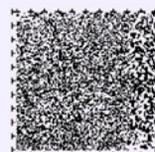
第23回障害者による書道・写真コンテストのお知らせ

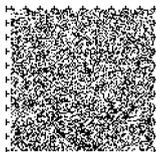
レクリエーション

都会の廃校に、おもちゃ美術館

特集

障害者スポーツ





これは、SPコードです。
専用読み取り装置の使用により、誌面の内容の音声出力
が可能です。



第22回障害者による写真全国コンテスト

金賞「落日の棚田」

福岡市 齊藤 新

(作品PR) 玄界灘に面した海岸からかけ上る階段のように斜面を283枚の棚田が覆い、4月下旬の田植が終り、早場米の苗が並ぶ頃、新緑が次第に赤みを帯び、田に張られた水が朱色の輝きを増して行く光景に感動しシャッターを切りました。

(寸評) 唐津には古い水田の遺跡があります。大陸から水田稲作をもたらした人々が住み付き、ここから日本中に稲作が広がりました。渡ってきた人々はどんな思いで故郷のほうに沈む夕日を眺めたのでしょうか。歴史の重みを感じさせる深い絵です。

このコンテストは、障害者の文化活動等の推進を図ることで技術の向上、自立への促進並びに積極的な社会参加を目的として、(財)日本障害者リハビリテーション協会(全国身体障害者総合福祉センター)の主催により毎年開催されているものです。第22回を迎えた今回のコンテストでも、全国各地より263点にのぼる素晴らしい作品の数々が寄せられました。

目次

2008年6・7月号

特集：障害者スポーツ

- 2008年北京パラリンピック大会 ～新たな時代を迎えて～ ————— 大久保 春美 1
- 2008年パラリンピック北京大会準備状況 ————— 崔 哲根 3
- 第8回全国障害者スポーツ大会「チャレンジおおいた大会」への取り組み — 堀川 裕二 5
- フェスピック競技大会にみる大会成績の要因とGDP ————— 阿部 崇 8

ライフサポート

- 社会保険Q&A ————— 高橋 利夫 12

ライフサポート

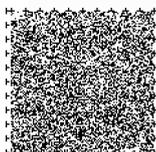
- 義肢装具等完成用部品データベースシステムの構築と障害者における
情報支援機器利活用のあり方に関する研究について ————— 五島 清国 13

レクリエーション

- 都会の廃校におもちゃ美術館 ————— 多田 千尋 17

お知らせ

- 第23回障害者による書道・写真全国コンテストのお知らせ ————— 19
- 全国身体障害者総合福祉センター(戸山サンライズ) 刊行物・制作DVDのご紹介 — 24



2008年北京パラリンピック競技大会

～ 新たな時代を迎えて ～

日本選手団 団長 大久保 春美

埼玉県総合リハビリテーションセンター 健康増進担当部長

1 オリンピックとパラリンピック

2001年6月に、国際オリンピック委員会（IOC）と国際パラリンピック委員会（IPC）は、オリンピックとパラリンピックの連携についての合意文書に調印しました。合意の内容は、パラリンピックがオリンピックと同じ開催地と設備を使用して、オリンピックの直後におこなわれることや、IOCはパラリンピックについて運営面や経済面において支援すること、さらに、パラリンピック競技大会の組織委員会はオリンピック競技大会に統合されることなどであり、2008年の夏季パラリンピック、2010年の冬季パラリンピックから有効となるなどが合意事項に含まれています。したがって、北京パラリンピック競技大会の運営主体は、国際パラリンピック委員会（IPC）と北京オリンピック

組織委員会（BOCOG）になり、長いパラリンピックの歴史からみても大きな流れの変化と言えます。

また、合意による具体的な事項として、選手と割り当て役員のエントリー費（宿泊費や参加費など）が無料になること、オリンピックと同様の様々な規則の遵守や手続きが課せられ、エントリー、アンチ・ドーピング、メディア、マーケティングなどの細部にわたりオリンピックで適用していることを守らなければならないということです。

さて、2016年のオリンピックには東京都を含め世界の7都市が立候補を表明していましたが、6月4日のIOC理事会において東京を含め4都市が正式な立候補都市として絞り込まれ8月から国際的な招致活動が開始できることになりました。今後、「東京オリンピック・パラリンピック招致」という活動が開始され、パラリンピックはスポーツとしての認識を世界的に深めるとともに、日本における障害者のスポーツに大きな影響を及ぼしてくれるでしょう。

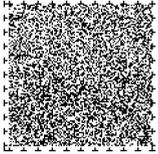
表1 競技別参加資格の取得方法

		大会の成績	世界ランキング	標準記録の設定
1	アーチェリー			
2	陸上			
3	ボッチャ			
4	自転車			
5	馬術			
6	柔道			
7	パワーリフティング			
8	ボート			
9	射撃			
10	水泳			
11	卓球			
12	車いすフェンシング			
13	車いすテニス			
14	ゴールボール			
15	シッティングバレーボール			
16	車いすバスケットボール			
17	ウィルチェアーラグビー			
18	セーリング			
19	サッカー5人制（視覚障害）			
20	サッカー7人制（脳性麻痺）			

2 大会の概要と参加資格について

2008年北京パラリンピック競技大会は、夏季大会としては13回目の開催になります。オリンピックが終了した2週間後の9月6日（土）に開会式が行われ、9月17日（水）閉会式までの12日間にわたり開催されます。参加国は、IPC加盟国約145カ国・地域から、約6000人（選手4000人、役員2000人）の参加が予定され、20競技が実施されます。

パラリンピックに参加する資格を得るためには、競技ごとに決められた方法による出場の権利を獲得しなければなりません。大会の成績によるもの。世界ランキングによるもの。標準記録の設定があるもの。この3つの方法があり、さらに、各国に対して選手枠数が指定さ



れる競技（陸上など）や選手個人に資格
 が与えられる競技（パワーリフティング
 等）など、選手枠獲得方法はかなり複雑

になっています。表1には、簡単に競技による参加資格の取得方法について整理してみました。

3 日本選手団

日本選手団は、17競技158人の選手が決定しています。未確定選手がありますが、過去最多数であった前回のアテネ大会をやや下回る選手数になる見込みです。



記者発表風景

4 記者発表会

去る5月20日、都内のホテルにおいて「2008北京パラリンピック日本選手団発表会」を行い、前日の日本パラリンピック委員会（JPC）で決定された選手を公式に発表しました。45社130人の報道関係者、JPCのオフィシャルパートナー（支援企業等）などを含め200名以上の出席がありました。映像を用いて選手ひとり一人の顔写真を公表すると共に、決定した全選手のプロフィールや大会までのスケジュール等の資料を提供するとともに、日本障害者スポーツ協会ホームページにおいても直ちに情報を公開しました。情報をタイミングよく効果的に全国に配信することで、翌日の全国各地の新聞で、選手名も含めた情報が紹介される結果となりました。私の団長としての挨拶では、アテネを上回るメダルの獲得をめざすこと、障害者のスポーツは多くの国民に感動と勇気、元気を与えるものであり、選手にはその期待に応えるような活躍を望んでいるとともに、報道各社にはこのような選手の姿を国民に伝えるための協力をして欲しいと述べました。

5 北京パラリンピックへの意気込み

前回のアテネ大会では52個のメダル

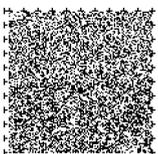


表2 競技別参加選手一覧（予定）

	競技名	男子	女子	mix	計
1	アーチェリー	4	4		8
2	陸上	24	8		32
3	ボッチャ			4	4
4	自転車	4			4
5	馬術	1			1
6	柔道	6	3		9
7	パワーリフティング	1			1
8	ボート	1	1		2
9	射撃	2	3		5
10	水泳	8	10		18
11	卓球	1	1		2
12	車いすフェンシング	1			1
13	車いすテニス	4	3		7
14	ゴールボール	×	5		5
15	シットイングバレーボール	12	12		24
16	車いすバスケットボール	12	12		24
17	ウィルチェアラグビー			11	11
18	セーリング	×			0
19	サッカー5人制（視覚障害）	×			0
20	サッカー7人制（脳性麻痺）	×			0
	計	81	62	15	158

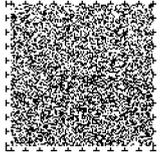
2008.5.28 現在

を獲得し、過去最高の成績を残すことができました。北京大会においても、選手が最高のコンディションで競技に挑めるような支援体制づくりに主眼をおきたいと思えます。各国に割り当てられる役員数は選手数の60%に決められているため、競技の特性や重度障害者が参加する競技などを考慮しながら役員を配分しなければなりません。どの国も同じ条件下で競技するわけですので、どのようにカバーできるか知恵をだしていかなければなりません。そのためにも、各競技の状態を理解し、できる限りの柔軟な対応と努力を惜しまないことと、何よりもコミュニケーションを重要にしたいと思えます。大会終了後の選手ひとり一人の満足度では「結果に満足！」と言ってもらえるような支援ができれば良いと考えます。

さて、アジアでは、日本、韓国そして中国が、パラリンピックの開催歴をもつこととなります。今後、アジアにおけるスポーツがさらに発展できるよう、特にアジア諸国とのコミュニケーションを深めることが私自身に課せられた役割であると認識しています。多くの人々が、隣国中国で開催される北京パラリンピックの成功と日本選手を応援して下さることを願っています。

2008年パラリンピック 北京大会準備状況

延辺大学 体育学院
管理者 崔 哲根



パラリンピックとは、国際パラリンピック委員会 (International Paralympic Committee 略称IPC) が主催する身体障害者を対象とした世界最高峰のスポーツ競技大会です。オリンピックと同じ年に同じ場所で開催されます。2004年のアテネ大会から夏季オリンピックと共同の開催組織委員会が運営しています。

北京パラリンピックは北京オリンピックの競技場をそのまま使うため、競技場の設備にはパラリンピックの特殊な要求に配慮しています。

戦場で負傷した兵士たちのリハビリテーションとして「手術よりスポーツを」の理念で始まったこの大会は、もともと国際オリンピック委員会 (略称IOC) とは全く関係がなく、オリンピックとは開催地が異なっていました。ソウルオリンピックの以後、オリンピック開催後に同じ場所でパラリンピックを開催することが義務付けられるようになりました。

「パラリンピック」の名称は、下半身不随 (paraplegic) + オリンピック (Olympic) の造語ですが、下半身不随者以外も参加するようになったため、1985年から、平行 (parallel) + オリンピック (Olympic) で「もう一つのオリンピック」と解釈されてもいます。

第13回の夏のパラリンピックは、2008年9月6日(土)から9月17日(水)までの12日間、第29回夏のオリンピック北京大会に使用する施設で展開される予定です。アジアで夏のパラリンピックが開催されるのは1988年の韓国ソウル大会以来、20年(5大会)ぶり3回目、中国では初開催です。

その特色として、「東西文化の交流」、「緑の五輪」、「発展途上国初の五輪」、そして「節約型五輪」を全面的に打ち出し招致に成功しました。

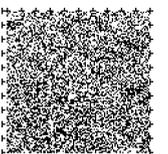
国際オリンピック委員会 (IOC) と国際パラリンピック委員会 (IPC) は、2001年に「北京オリンピック以降の全てのオリンピックでは、組織委員会がオリンピックとパラリンピックの開催に責任を持つ」との協定に調印しました。そこで、北京オリンピック組織委員会は専門の部門を設立して、パラリンピックの準備作業に責任を持ち、オリンピックが終わったあと、オリンピック組織委員会はパラリンピック組織委員会に変わってになっています。パラリンピックが北京で開催されることにより、中国社会の障害者に対する関心も高まってきています。パラリンピックまであと3ヶ月しかないので、パラリンピックに参加する選手の皆さんは、毎日各自訓練センターで練習に励んでいます。

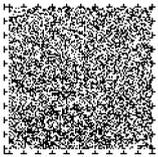
開催地での準備は、スポーツ施設をはじめ、道路交通、自然環境、選手村などが最終の段階に入っています。

北京オリンピック組織委員会パラリンピック部の張秋平部長は、2008年北京パラリンピックに出場する選手の渡航費、食費、宿泊費を無償で提供することを明らかにしました。これはパラリンピック史上初めてのこととなると新華社が伝えています。

競技場と選手村

パラリンピックはオリンピックの





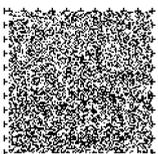
競技場と施設を使うようになっています。これらの競技場と施設はパラリンピックの要求に配慮しているため、いかなる付加の資金も必要としていません。

オリンピック選手村は、車を走らせて30分以内に全ての施設に到着する有利な位置に置かれていて、首都の国際空港との距離が21キロメートル、高速道路で結ばれ、20分以内には到着することができ、市の中心から9キロメートル、オリンピック選手村から専用車、あるいはオリンピック公園から地下鉄に乗って15分掛からない所にあります。これらは、パラリンピックのスポーツ選手と関係者を便利で安全に移動できるように保障しています。

市の中心と主要な観光地との間には、別の専門の交通手段があります。組織委員会は、交通部門がコンピュータを通して、交通量を管理し、効率よく車の便数を手配できるようにしています。公共のバス停区ははっきりしていて、ボランティアが協力して働きます。

パラリンピック選手村はオリンピック選手村を使って、居住条件は障害者の特殊な要求に配慮しており、中国と世界のその他の地区の手本になるでしょう。選手村はスポーツ選手のために安全な環境を提供して、彼らに最も良い状態で試合を行ってもらうことができます。14の競技場は選手村から車で5分しかかからない場所にあり、それ以外の10の競技場は車で20分以内に到着することができ、残り8の競技場は車で30分以内で到着可能です。オリンピック選手村は人口の迅速に増大する地区に位置して、北京市街地区の長期の総体プログラムの重要な構成部分です。

パラリンピック選手村はオリンピック選手村の1,700セットの客室を共有して、約7,700人が入ることができ、4,000人のスポーツ選手、2,000人の役員と1,000人近くの技術員が入ります。全ての客室は車椅子の人に提供できるように浴室とトイレが整備されています。



国際パラリンピックの委員、各国の地域のパラリンピック委員会の主席と事務総長、国際パラリンピック委員会の各委員会の委員、そしてその他の国際パラリンピック委員会の関係者は、「パラリンピックの大家族」の本部のホテル（北京ホテル）に宿泊します。

北京パラリンピックは3,000～4,000人の報道関係者を受け入れられるよう用意しています。また、組織委員会は、市の中心の4～5星印基準のホテルに賛助商が泊まれるようにし、一流の展覧会と会議の施設を、世貿ビルに招待区を設立しています。

パラリンピックの予算

第13回パラリンピックに必要な8,200万ドルは、北京のオリンピック組織委員会の予算に組み入れられています。それ以外に、中国政府と北京市役所は800万ドルを補助し、もし支出超過があれば、国の財政部と北京市財政局は、これを支払うことに責任を持つことを承諾しています。

北京パラリンピックは世界大家族として、シンボルマークに表されています。「天、地、人」の意味は、上の赤い部分は天、下の緑は大地、そして青い人文字は全ての人間で、人間が一番大きいと示しています。

北京オリンピック組織委員会は、大会のスローガンとして「One World, One Dream (ひとつの世界、ひとつの夢)」を選び、中国々内および国際社会における人々のつながりや友好を基本とした大会、パラリンピックも同一の大会と位置づけています。

参考文献

1. 北京2008残疾人奥运会ホームページ
(<http://temp07.cdpj.cn/paralympic/index.htm>)
2. 馬維平：2009年北京パラリンピックに向けて、第223号、19頁

第8回全国障害者スポーツ大会 「チャレンジ！おおいた大会」への取り組み

社会福祉法人 太陽の家
公益事業課専任課長 堀川 裕二

1. 国体の取り組みは12年前から

大分で開催される国体の会議（総務専門委員会）に初めて出席したのは、12年前の事です。現在は大分県障害者スポーツ指導者協議会の立場で参加していますが、当初の肩書きは太陽の家訓練課長、まだ障害者スポーツ指導員の存在も余り知られていない頃でした。また、その当時は総務の他に競技と施設の専門委員会しかなく、選手強化と会場整備が最大の課題でした。国体ではジュニア時代から強化に取り組みますが、障害者の場合、12年前は健常者だった選手も多いのではないのでしょうか。一方、会場については基本的に国体で使った会場を障害者の大会でも使用します。

そして、2001年から全国障害者スポーツ大会がスタートしました。その頃は、会議の最後に障害者スポーツや全国障害者スポーツ大会についての理解を深めるために説明をしたり資料を配付するのが、私の大切な役目でした。



第4回全国障害者スポーツ大会開会式

2. 障害者スポーツ指導員の養成

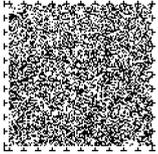
障害者スポーツの普及に欠かせないものの一つ

に障害者スポーツ指導員の存在が上げられます。現在の指導員制度は1985年にスタートしましたが、中級以上の指導員が全体の1割を越えないことが長年の課題となっています。また、大分県内の障害者スポーツ指導員は、施設の職員や関係者等、日頃から障害者に関わっている方が中心で、競技の専門家が少ないというのが実情でした。



中級障害者スポーツ指導員養成講習

しかし、全国障害者スポーツ大会の選手強化を目的とした障害者スポーツの普及を考えた時、専門的知識を持った指導員の養成が不可欠です。指導者協議会では、財団法人日本体育協会公認の指導者（指導員、コーチ、教師等）が4日間の講習会（講義23時間、実技8時間）と活動実績報告のレポート提出で中級障害者スポーツ指導員の資格を取得できる制度を活用して、3年間で27名の専門競技を持つ中級指導員を育成しました。またこれに合わせて、2年連続で一般（初級指導員から昇級）の中級指導員も多数養成し、多くの指導員が「チャレンジ！おおいた大会」に向けての選手の強化・



育成と競技運営に関わっています。

また、障害者スポーツの底辺拡大や地域で直接指導を担当する初級指導員も毎年約80名程度を養成してきましたが、活動の機会や情報を提供することが難しく、資格のみで終わってしまう傾向があります。そのため、財団法人 日本障害者スポーツ協会公認スポーツ指導員の数は横ばい状態となっており、スポーツ指導者の養成についてはまだまだ課題が多いと言えるでしょう。

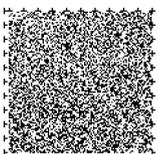
3. 正式競技になった精神障害者バレーボール

久し振りの男女揃ってのオリンピック出場が決まったバレーボール。この記念すべき年に第2回大会からオープン競技として開催されてきた精神障害者のバレーボールが正式競技に昇格し、全国障害者スポーツ大会が名実ともに身体、知的、精神の3障害全てを対象としたスポーツの祭典となります。



第6回全国障害者スポーツ大会

この競技の発展は、精神障害者スポーツ関係者、とりわけ社団法人 日本精神保健福祉連盟（精神障害者スポーツ推進委員会）の皆様の地道な努力なしでは語れません。1999年から取り組まれた精神障害者スポーツ振興事業の中で、全国精神障害者スポーツ大会・ブロック大会の開催や都道府県レベルでの精神障害者スポーツ推進協議会などの組織作りを行ってきました。



2001年に宮城県で開催された第1回全国精神障害者バレーボール大会

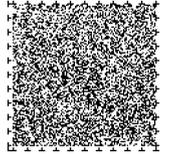


太陽の家で開催された九州予選の開会式

で取り入れられたルールは、ソフトバレーボールを使用し、常に最低1名の女性選手が入ること以外は、6人制のバレーボールを原則としたものです。この、ソフトバレーボールを使ったところが、この競技が短期間に全国へ普及した重要なポイントだと思います。精神障害の方たちの殆どは学校時代にバレーボールの経験があると思いますが、その多くは「ボールは痛い!」「バレーボール経験者には歯が立たない」と思っているのではないのでしょうか? ソフトバレーボールが一般のバレーボール程痛くないことはもちろんですし、経験者だからといって上手くプレーできるとは限りません。だからこそ多くの方が挑戦してみる気になるのだと思います。この辺りが、殆ど健常者と同じルールで行われている知的障害者の団体競技と違うところです。

さて、4年前までは九州地区予選会に参加したことさえなかった大分県ですが、初めて代表チームが出場した第6回大会予選会を太陽の家の体育館を中心に開催しました。身体障害の分野で長い歴史を持つ太陽の家において精神障害者の大会が開催されたことは、障害者スポーツが3障害統一の時代に突入したことを全国にアピールしました。

その後大分県では、第7回大会予選会を開催。そして開催時期の変更のため予選会がなくなってしまった2007年度においても、“めじろんCUP”と題した九州大会を開催しました。今年度も既に5月にはリハーサル大会を兼ねた予選会が行われ、いよいよ10月の本大会を迎えます。



また、県内の施設等から選抜された大分県チームも週1回の合同練習を続けながら着実に力を付けており、メダル獲得を目指しています。

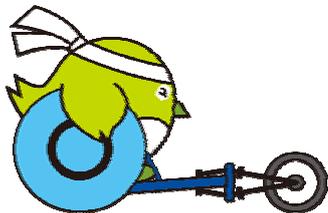
4. 20年ぶりに開催される卓球バレー

競技化に拍車がかかり、日本の障害者スポーツにとっても大きな転換期となったソウルパラリンピックが開催された1988年。この年に京都で開催された第24回全国身体障害者スポーツ大会において、初めての公開競技として実施されたのが、車いす駅伝と卓球バレーです。車いす駅伝は今や高校駅伝、女子駅伝とならぶ京都三大駅伝として定着し、来年2月に第20回大会を迎えます。

そして、もう一つの公開競技だった卓球バレーが、それから20年後の今年、「チャレンジ！おおいだ大会」でオープン競技として実施されます。

ここで卓球バレーを紹介します。ひとことで表現するなら、“6人制ゴロ卓球”です。卓球台を6人対6人で取り囲み、サウンドテーブルテニス用のピン球（中に金属のタマが4つ入っている）を木製のラケットを使い、転がして打ち合う競技です。近畿の筋ジストロフィー児のための養護学校で始まり、京都を中心に普及されました。

京都大会での公開競技をきっかけに京都太陽の家で取り組まれた卓球バレーは、スポーツ訓練の一つとして太陽の家（大分）に伝わりました。本格的な活動が始まったのは今から10年ほど前で、「卓球バレーで京都に行こう！」の誘いに乗ったメンバーが、旅行気分で大分に参加したのが最



マスコットのめじろん

初でした。しかし、3年くらいすると、重度な障害者でも気軽にできるこの競技の特性を活かして、県内に普及しながら大会を開催していくようになっていきました。また、障害者スポーツ指導員の養成講習会などを通じて、全国への普及も進みました。そして昨年2月、ふうせんバレーボールと共にオープン競技に決定しました。本大会での実施に合わせて日本卓球バレー連盟（仮称）の設立も計画されているこの競技の今後にご注目下さい。

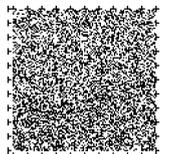


大分オープン卓球バレー交流大会

5. 次回の改革も視野に入れて……

さて、「チャレンジ！おおいだ大会」まであと3ヶ月余りとなりました。この大会からの改革点がどのような結果をもたらすかはわかりませんが、5年後に予定されている次の改革も視野に入れて、今年の大会に取り組んでいきたいと思いません。

多すぎる知的障害の団体競技、新しくなったスラロームや新種目ジャベリックスロー、内部障害や精神障害の出場競技（種目）の拡大など、多くの問題が山積していますが、選手役員の皆さまにも問題意識を持って大会に参加して頂くことが、よりよい大会づくりに繋がると確信しています。



フェスピック競技大会にみる 大会成績の要因とGDP

筑波大学附属大塚特別支援学校

阿部 崇

1. はじめに

今年2008年9月に4年に1度の障害者スポーツの祭典、パラリンピック夏季大会が北京で開催されます。みなさんご存知のとおりパラリンピックは、スポーツを通じて肢体不自由のある人のリハビリテーションを促進する目的で、開催されるようになったことを起源としています。1948年に英国のストーク・マンデビル病院において Ludwig Guttman博士（以下グットマン）の指導によりストーク・マンデビル競技大会(Stoke Mandeville Games)が開催されたことに端を発し、パラリンピックが開催されるようになって今年が60年目にあたります。そのグットマンの下でスポーツのリハビリテーション分野における効用を学んだ故中村裕博士（1927-1984：元社会福祉法人太陽の家庭理事長）は、1975年にお膝元である大分県大分市・別府市で18カ国973人の参加者を集めて第1回フェスピック競技大会を開催しました。その後、規模を拡大して発展が見られましたが、2006年11月にマレーシア（クアラルンプール）で開催された第9回フェスピック競技大会後、フェスピック競技大会は閉幕しました。そしてフェスピック競技大会は「第10回アジアパラリンピック競技大会（仮名）」として2010年中国・広州で次期大会が開催されることが決定され、パラリンピックのアジア予選会として大会回数が踏襲されることになっています。ここでは、最後のフェスピック競技大会となった第9回フェスピック

ク・クアラルンプール（マレーシア）大会において実施した聞き取り調査

をもとに、フェスピック競技大会における成績に関わる要因を明らかにして、その結果をもとに私なりの北京パラリンピックの展望を述べてみたいと思います。

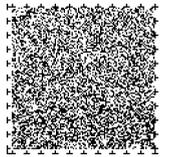
2. 調査方法

第9回フェスピック・クアラルンプール（マレーシア）大会現地において直接聞き取り調査を実施しました。調査対象国・地域は、メダル獲得数を基に参加国・地域の中から選択し、メダル獲得数上位10カ国・地域とそれ以外の9カ国としました。調査対象者はそれら19の国・地域の選手団長もしくはそれに準ずる役員としました。調査内容は先行研究を基に作成し、各国・地域の①障害者スポーツ振興機関、②報奨金制度、③スポーツ施設、④指導者養成制度の4つと国内総生産（GDP）とし、大会成績として「メダル獲得数」を挙げて、その影響する要因について考察しました。以下、本文中（ ）内はメダル獲得数の順位とします。

3. 調査結果および考察

(1) 障害者スポーツ振興組織

障害者スポーツ振興組織を有していない国は、調査対象国の中でイラクだけであり、残り18の国・地域は有していました（表1）¹⁾。イラクのメダル獲得数11は全体の15位にあたり、必ずしも好成績とは言えない結果でした。また聞き取り調査の折、イラクは「政府からの援助はあるが、非常に小額である」と回答しており、経済的な支援が十分でない様子が明らかとなっています。多機能



の役割を果たす組織は障害者スポーツ発展に必要不可欠であると考えられます。例えばわが国では財団法人日本障害者スポーツ協会が①大会の開催・奨励、②指導者の養成、③IPC・国際障害別競技団体への事業参画、④国際大会派遣、⑤選手強化、⑥調査研究・情報収集、⑦広報活動など幅広い事業をおこなってスポーツの振興活動を行っています²⁾。その中でも、選手を強化するためには核となる組織が必要で、我が国では1999年財団法人日本障害者スポーツ協会の中に日本パラリンピック運営委員会を置き、トップアスリート育成、各国の情報収集、海外派遣等の活動を行っています。このような多面的な役割を果たす組織が選手強化に携わることがメダル獲得に繋がっていくと考えられます。

(2) 報奨金制度

報奨金制度については、調査対象の19カ国・地域中12カ国・地域(63.1%)が実施していました。メダル獲得数上位10カ国・地域では日本(6位)とオーストラリア(10位)以外の8カ国・地域が報奨金制度を有していたことが明らかとなりました。特に、タイ(3位)は報奨金制度が充実しており、第9回フェスピック・クアラルンプール大会の公式情報誌によると『クアラルンプール大会で金メダルを獲得した選手に対して、政府はボーナスとして300,000バーツ(日本円で約900,000円)の報奨金を支払う約束をしている。選手はその報奨金によりさらなるトレーニングができる』とタイパラリンピック委員会(Thailand Paralympic Committee)会長 Bhavilai Osoth氏は話している³⁾とあります。高橋(2004)の報告にも「パラリンピックがエリートスポーツとしての歴史をたどろうとするなかで、競技色を強めたきっかけは1988年のパラリンピックソウル大会において数カ国ではあるが、メダル獲得者に報奨金が渡されたことがあったかと思えます。これが競技者のメダルにかける執着心をあおり、勝負にこだわる結果につながりました⁴⁾」とあり、タイの例から報

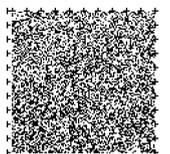
奨金制度の存在が選手のモチベーションに大きく影響し、好結果を生み出す一要因となっているといえるでしょう。

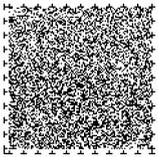
(3) スポーツ施設

スポーツ施設については、成績上位国のうち中国(1位)、韓国(4位)、イラン(5位)、日本(6位)が一般のスポーツ施設と障害者スポーツ施設共に利用されている状況が明らかとなりました。また、ベトナム(9位)が一般のスポーツ施設ではなく障害者専用のスポーツ施設を使用していると回答がありました。大石(1990)は「障害者専用のスポーツ施設は地域の社会福祉施設として、活動の場やプログラムの提供、指導者やボランティアの育成、情報収集、発信、相談、啓発等の役割が果たすこと⁵⁾」と報告しており、障害者にとって専用のスポーツ施設は大きな存在であるといえるでしょう。障害者専用のスポーツ施設の役割として建物のバリアフリー化が進められている点や専用のスポーツ用具が準備されている点以外にも、心理的障害、偏見、利用制限などを取り除き、身近に利用できる施設であることもいえます。このようなことから障害者専用のスポーツ施設は選手のパフォーマンス向上に貢献しているといえるでしょう。

(4) 指導者養成制度

指導者養成制度は19カ国・地域中12カ国・地域(63.1%)が実施していました。また、唯一台湾(8位)だけが指導者養成制度を有していませんでしたが、成績上位10カ国・地域のうち9カ国に指導者養成制度が存在していました。草野(1987)は「障害者の社会体育活動を発展させ、意義あらしめるためには、まず最初に力量のある指導者を迎えることから始めなければならない。指導者は実際の体育活動の指導をおこなうのはもちろんのこと、諸課題を解決する推進役としても重要な役割をもつ





ている」⁶⁾と報告しており、障害者がスポーツをおこなう上で、指導者の存在は大きいといえるでしょう。

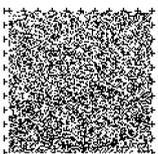
指導者は障害者一人ひとりについて、その障害の内容や程度、その日の体調などの健康状態を把握し指導しなければなりません。また、健康管理や安全管理に関する知識、運動の専門性が求められます。障害者スポーツには、その指導者が重要な位置を占めており、その養成制度は必要不可欠であるといえるでしょう。

(5) GDP

参加各国・地域のGDPを見てみると、表1(次頁)から、メダル獲得数上位10カ国・地域はGDPが高く、大会開催国のマレーシアと社会主義国のベトナム以外の8カ国・地域がGDP上位10カ国・地域に位置していました。このことからGDPの高い国・地域が好成績をおさめているといえるでしょう。経済面について芝田(1992)は次のように報告しています。「スポーツ活動が十分できるためには、経済的にも時間的にもゆとりがなければなりません。つまり、今日の生活に困っているようではとてもスポーツどころではありません」⁷⁾。また、「障害者がスポーツをするための基礎的条件は経済的、時間的ゆとりである」⁷⁾としています。このことから、障害者が日常でスポーツ活動をするだけのゆとりある生活を送ることが重要であるといえるでしょう。さらに、国・地域が障害者の生活を支援するだけの経済的ゆとりが必要であるといえるでしょう。障害者がスポーツに取り組めるだけの余裕ある生活が保障されなければ、国際的なスポーツ大会はおろか日常のスポーツ活動への参加も得られないと考えられます。

4. おわりに

以上のことから成績上位国・地域の多くが経済的に恵まれていることがわかりました。そして、それらの国・地域は障害者スポーツ組織、報奨金制度、障

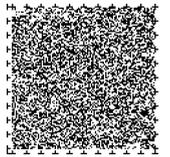


害者専用スポーツ施設、指導者養成制度を有していることも明らかとなりました。これらのことから経済的に豊かな国・地域が障害者のスポーツ環境を保障し、フェスピック競技大会で好成績を上げたことが推測されました。これまで述べてきた報奨金制度、スポーツ施設、指導者養成機関、それぞれにおいてその整備・運営には経済力が必要であり、その経済力を有する国・地域が結果として成績上位に位置づいたと考えられます。また各国・地域の経済力は障害者のスポーツ活動だけでなく、生活そのものの保障に関わり、大会成績に影響を及ぼす要因であったことがいえるでしょう。本調査の結果から大会成績には間接的であるかもしれませんが、各国・地域の政府の経済力が関係していると思われました。

最後に、今年9月に北京でパラリンピックが開催されます。本調査で明らかとなったGDPやスポーツ環境の状況からいうと、アジアの中では開催国の中国、そしてタイ、イラン、韓国がメダル獲得数を伸ばしていくと思われ、その他にも経済成長の伸びが見られる国・地域の躍進も予想されます。日本代表の活躍と併せて各国・地域の経済力と成績の関係にもぜひ注目してください。

【文献および註】

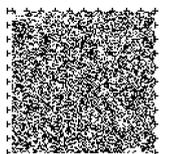
- 1) GDPは基本的には2004年のデータを使用し、国・地域全体の値とし、単位はドルになります。イラク、ミャンマーについては2003年、フィジーについては1999年のデータを使用。出典は以下のとおりです。
 矢野恒太郎記念会(2000):世界国勢図会2000/2001. 国勢社、東京。
 矢野恒太郎記念会(2004):世界国勢図会2004/05. 矢野恒太郎記念会、東京。
 矢野恒太郎記念会(2005):世界国勢図会2005/06. 矢野恒太郎記念会、東京。
 矢野恒太郎記念会(2006):世界国勢図会2006/07. 矢野恒太郎記念会、東京。
 矢野恒太郎記念会(2007):世界国勢図会2007/08. 矢野恒太郎記念会、東京。
- 2) 財団法人日本障害者スポーツ協会(2007):財団法



- 人日本障害者スポーツ協会・日本パラリンピック委員会。私家版、東京都：1-15.
- 3) Communications Department(2006):Thai gear up for Asean Para Games.The KL'06 9th FESPIC Games Official Bulletin,ISSUE10:7.
- 4) 高橋明 (2004) : 障害者とスポーツ. 岩波新書. 160 - 162.
- 5) 大石正人 (1990) : 身体障害者のスポーツ. 教育と医学, 38(10). 896-985.
- 6) 草野勝彦 (1987) : 障害者に対する運動指導者養成の問題点. 体育の科学, 37(1) :28-30.
- 7) 芝田徳造 (1992) : 障害者とスポーツ. 文理閣. 京都府 : 53-54.

表1 フェスピック・クアラルンプール大会における聞き取り調査の結果及びGDP

	メダル数	国・地域名	振興組織	報奨金制度	スポーツ施設	指導者養成制度	GDP	順位
1	307	中国	ある	ある	一般のスポーツ施設 障害者専用スポーツ施設	ある	1,931,710	2
2	175	マレーシア	ある	ある	一般のスポーツ施設	ある。青年スポーツ省が実施。地域のスポーツ大会と共に講習会を開催。	118,318	
3	152	タイ	ある	ある	一般のスポーツ施設	ある。大学主催と旅行スポーツ省のスポーツ・レクリエーション開発局主催。	161,688	10
4	143	韓国	ある	ある	一般のスポーツ施設 障害者専用スポーツ施設	ある。各地域にあるスポーツセンターが主催する。	679,674	4
5	105	イラン	ある	ある	一般のスポーツ施設 障害者専用スポーツ施設	ある	163,445	8
6	100	日本	ある	ない	一般のスポーツ施設 障害者専用スポーツ施設	ある	4,622,771	1
7	79	香港	ある	ある	一般のスポーツ施設	ある	163,005	9
8	69	台湾	ある	ある	一般のスポーツ施設 (大学や学校)	ない	322,255	6
9	67	ベトナム	ある	ある	障害者専用スポーツ施設	ある。政府が主催し、スポーツセンターで実施。	45,210	
10	65	オーストラリア	ある	ない	一般のスポーツ施設	ある。それとは別に、一般のスポーツ指導者も障害者スポーツ養成の講習を受ける。	637,327	5
	32	インド	ある	ない	一般のスポーツ施設	ない	691,163	3
	22	インドネシア	ある	ない	一般のスポーツ施設	ない	257,641	7
	17	シンガポール	ある	収入が多い時のみ	一般のスポーツ施設	ない。現在、検討中。	106,818	
	14	フィリピン	ある	ある	一般のスポーツ施設	ある。政府が主催するボランティア・コーチ向けの講習会。	84,567	
	11	ミャンマー	ある	ある	一般のスポーツ施設	ある	58,072	
	11	イラク	ない	ない	一般のスポーツ施設	ない	12,602	
	8	パキスタン	ある	ある	一般のスポーツ施設	ない	96,115	
	7	フィジー	ある	ない	一般のスポーツ施設	ある	1,758	
	5	ニュージーランド	ある	ない	一般のスポーツ施設	ない	98,944	



社会保険 Q&A

(問) 先日、会社から「ねんきん特別便」が配付されました。これからどうすればいいものか、お尋ねします。

(答) 「ねんきん特別便」については、本誌でも「年金に結び付く可能性のある年金記録」として、先号で概要をお答えしておきました。

今年、6月以降は、「すべての受給者・加入者に送付する第2段階として、広く企業等にも協力を求め、国を挙げた体制で年金記録の確認等を推進し、記録の統合等を進める」こととされ、厚生年金保険・共済組合加入者（国民年金の「第2号被保険者」です。）に、原則として会社経由で送付されたところです。

「ねんきん特別便」は、社会保険庁で把握している年金の加入記録をお知らせし、記録の「もれ」や「間違い」がないかを確認していただくもので、確認の上は、確実に回答してください。

以下、会社を経由した「ねんきん特別便」の流れについて、概要を記します。

1 会社への送付方法

6月から現役加入者への「ねんきん特別便」について、事前に社会保険庁から会社に協力の可否を照会し、その回答を得て、従業員の「ねんきん特別便」をまとめて会社に送付します。

2 会社から従業員への配付

「ねんきん特別便」(緑色の封筒)は、開封せずに従業員に手渡すこととされています。

配付に当たっては、次の事項について、従業員に説明するか、又は広報チラシを活用して周知を図っていくこととされています。

「ねんきん特別便」を必ずご覧いただき、年金記録に「もれ」や「間

違い」がないか十分にご確認していただきたいこと。

年金記録に「もれ」や「間違い」がある場合もない場合も、必ず同封している「年金加入記録回答票」にご回答を記入し、提出いただきたいこと。

「ねんきん特別便」に表示されている住所が、現在お住まいの住所と異なる場合は、事業所を通じて住所変更届をご提出いただきたいこと。(すでに住所変更届をご提出いただいている場合は必要ありません。)

3 「年金加入記録回答票」の回収

会社は、従業員から回答票を入れた返信用封筒を回収します。このとき、封筒の裏面に、必ず、住所、氏名を記載しておきます。この回収は、配付から1ヶ月以内を目途に行われます。

4 会社から社会保険庁への提出

会社は、1ヶ月後に回収できたものを社会保険庁へ提出することになります。

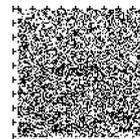
5 その他

従業員本人の希望により、回答票を直接社会保険業務センターや社会保険事務所等に提出された場合には、会社にその旨、申し出ておいてください。

回答票の記載内容に不備があった場合は、社会保険庁から直接本人に確認しますので、会社に確認することはありません。

「ねんきん特別便」を紛失、毀損された場合は、会社から管轄の社会保険事務所に一括申請ができます。この場合、「ねんきん特別便」と同様の内容が記載されている「年金記録照会回答票」が提供されます。

(回答：社会保険労務士 高橋 利夫)



義肢装具等完成用部品データベースシステムの構築と障害者における情報支援機器利活用のあり方に関する研究について

財団法人テクノエイド協会 企画部企画課長 五島 清国

財団法人テクノエイド協会(以下「当協会」)では、平成19年度において、厚生労働省障害保健福祉部から研究費や委託費の補助を受けて、「義肢装具等完成用部品データベースシステムの構築」と「障害者における情報支援機器利活用のあり方に関する調査研究」を行いました。本稿では、その成果等についてご紹介します。

1. 完成用部品データベースシステムの構築

平成18年10月に全面施行された障害者自立支援法に基づく、義肢や装具、座位保持装置の製作等で用いる、完成用部品についての詳細な情報を提供する「義肢装具等完成用部品データベースシステム」(以下「本システム」)を構築し、本年4月より、当協会のホームページにおいて、情報提供することとなりました。

(<http://www.techno-aids.or.jp/>)

(1) システム構築の目的と背景

完成用部品に関しては、現在、数多くの部品(H20.3現在/3,336部品)が厚生労働省から指定されていますが、同一の型式の中に「価格差」や「性能差」があり、その違いが明確に分からないこと、また、処方にあたってどの部品が利用者に適合するか、その判断が容易でないこと等の意見が、多くの更生相談所等から寄せられていました。

そこで、当協会では、国内の完成用部品のメーカーや輸入事業者(39社)を対象に情報の提供を依頼し、カタログ等の実態を調査したところ、適切な完成用部品を選択するための環境や情報提供については、必ずしも十分でないことがわかりました。

このような背景から、当協会では、「利用者の状態や使用環境に適合した『完成用部品』が、適切かつ効果的に選択できる仕組みについての調査研究¹⁾」を行い、本システムを構築する運びとなりました。

(2) 部品情報の内容

本システムから情報提供する内容は、厚生労働省から指定されている完成用部品²⁾についての詳細な情報であり、具体的には以下のとおりです。

基本情報

メーカー(輸入事業者)名 製品名
使用部品 型式 区分 価格等

詳細情報(16ページ「部品情報詳細」参照)

部品構造図 組立・加工後の写真 対象
構造 作用 効果
材質 寸法 重量 保証期間
組立・加工方法 調整方法等
適応体重と活動レベル
使用条件 注意・禁忌事項等

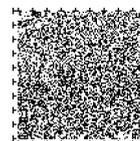
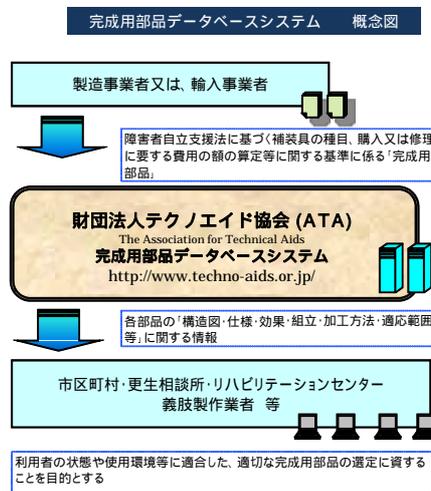
企業情報

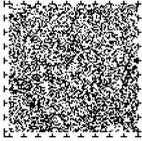
会社名 経営形態 代表者 住所
TEL FAX ホームページアドレス
電子メールアドレス等

本システムへの情報登録については、あくまでメーカー等による任意としているため、上記の詳細情報が登録されていないものもあります。

平成20年6月現在における詳細情報の登録状況は、3,336点の指定部品中、1,647点(49.4%)となっています。なお詳細情報は、今後順次拡充していく予定です。

(3) 本システムの概念図





(4) 検索方法等について

本システムでは、障害者福祉の施策に係わる様々な関係者の利用場面を想定しており、以下の4つの方法から完成用部品を検索することができます。

現在、使用手順マニュアルを作成しており、該当ホームページからダウンロードできるようにします。

検索方法	概要
カテゴリ検索	<ul style="list-style-type: none"> ・TOP画面に表示した「義肢・装具等」「区分」から該当する項目を選択することで「名称」「型式」のマトリクスを表示します ・マトリクスに表示された「 」(= 該当部品情報あり) を選択することで完成用部品を絞り込みます
キーワード検索	<ul style="list-style-type: none"> ・完成用部品に関するキーワードを入力することで、完成用部品を絞り込みます ・キーワードは複数入力が可能 (AND 検索) で、登録された部品情報の全てが検索の対象となります
詳細検索	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ用意した検索項目 (部品コード、企業名、名称、価格等) を入力又は選択することで、完成用部品を絞り込みます ・検索項目は複数設定が可能 (AND 条件) となっています
厚生労働省通知による検索	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省通知に記された「義肢・装具等」「区分」「名称」「型式」を順番に選択していくことで、完成用部品を絞り込みます

(5) システム開発後の課題と対応について

検索方法について

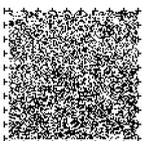
本システムが実用化し情報量が拡充されれば、各部品の効果や性能の違いを横並びで見ることができ、現場での利便性が高まるため、引き続き、

耐過重や重量に関するあいまい検索の強化
検索結果一覧における完成用部品画像のサムネイル (画像の縮小版) 表示
各部品の効果や性能の違いを横並びで見ることのできる完成用部品比較一覧の表示

などについて、改善を図る必要があります。上記課題のうち、及び については、現在システムの改修を行っています。

画像について

更生相談所や市町村等から「より高画質で大きい写真の掲載」や「掲載枚数を増やして欲しい」などの意見が出



されました。

各部品の画像の複数登録については、実現するよう現在システムの改修を行っています。

情報の拡充について

より現場のニーズに合ったシステムとなるよう、更生相談所や市町村等から以下のような意見が寄せられました。

部品の互換性や相性、ISO 規格等に基づく強度・安全性に関する情報
 カタログや取扱説明書のダウンロード
 指定されていない部品情報
 新旧モデルの比較情報、修理用部品に関する情報
 製造中止やリコール情報
 適用事例等に関する情報

その他の意見等について

現場の担当者は、数年で異動するケースがあること、また、企業によって構造や作用、効果等の表現・表記が異なることから、用語、文言等に関する説明や統一を希望する意見が出されました。

また、インターネットが利用できない場所での情報検索のため、モバイルパソコンへのデータ保存やDVD版、ハンドブックなどの紙媒体化の要望も出されました。

以上のご意見を踏まえ、当協会では、完成用部品のメーカーや輸入事業者、さらには義肢装具等の専門家の方々にご協力を賜り、現場のニーズに対応した、より使い勝手の良いシステムとなるよう可能な限り改良していきたいと考えております。

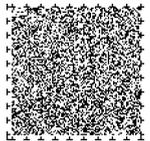
2. 障害者における情報支援機器利活用のあり方に関する研究

(1) 障害者における情報支援機器の必要性

障害者に対する施策は、ノーマライゼーションの理念の浸透や障害者基本法の改正、障害者自立支援法の施行などを受け、かつての「弱者を保護する」という観点から、「自立した生活を支援する」という観点へと大きく転換してきました。

こうした中で、障害者が自ら人生を豊かに暮らすために、さまざまな支援の方策がありますが、支援機器の活用によって他の人の手を借りずに生活できることは、障害者の基本的人権や尊厳を保障するうえでも重要なことでもあります。

ITをはじめとする技術が急速に発展している現在、



これらを活用し、障害者の自立した生活を支援する情報支援機器の可能性を最大限に引き出すための方策が求められているところであります。

このような背景から、障害者の自立した生活を支援するための情報支援機器について検討することは極めて重要なことであります。

(2) 調査研究の目的

本調査研究事業では、視覚障害者及び聴覚障害者の情報支援機器の実情や、特に就労支援に関する情報支援機器利活用の実態を把握し、今後求められる情報支援機器のイメージを明らかにした上で、関係各分野の技術開発を促進させるための技術基盤整備を行うとともに、今後の普及方策等について、調査研究を行いました。

中でも、調査研究の主眼として、視覚障害者及び聴覚障害者の情報支援機器の実情や、就労支援に関する情報支援機器利活用にあたっての実態把握等、現状と課題を整理した上で、その解決策の検討を行うとともに、中長期的な視点に基づき、開発や普及に向けた対応すべき方向性を整理することとしました。

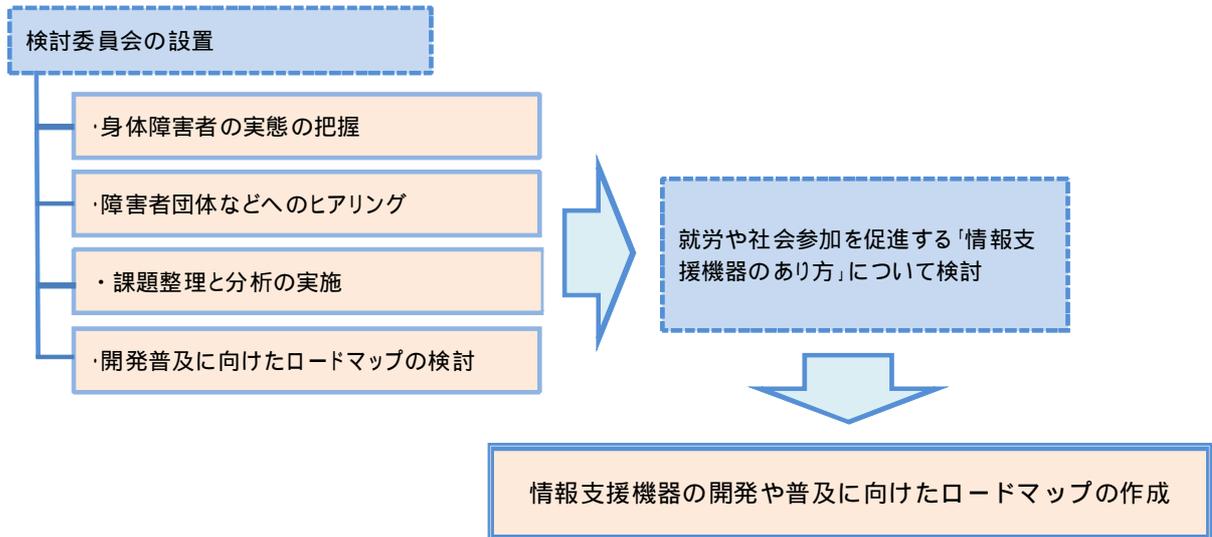
(3) 視覚障害者・聴覚障害者の就労・社会参加促進への情報支援のあり方

本研究において、就労を支援するための情報支援機器を開発・普及するために必要となる考え方を開発・施策・普及などのさまざまな側面から検討し、具体的には以下の項目についての提言を行いました。

情報支援機器の位置づけ
 情報支援機器のあるべき姿
 健常者向け機能との連携と、障害者が利用できるための拡張の取り組み
 情報支援機器の早期開発及び普及実現への施策提言

なお、研究成果の詳細につきましては、当協会のホームページから成果報告書をダウンロードできます。

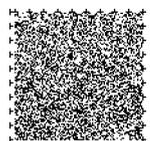
検討体制と検討事項等



ロードマップとは：
 就労を支援する情報支援機器の現状と課題を整理したうえで、その解決策の検討を行い、中長期的な視点に基づき、開発や普及に向けた対応すべき方向性を整理するものである。

1) 平成19年度「厚生労働省障害程度区分認定等事業費補助金（障害者保健福祉推進事業）」から研究補助を受けて、実施した「義肢装具等完成用部品のデータベース化に関する調査研究（平成19年度）」

2) ここでいう「厚生労働省から指定されている完成用部品」とは、平成18年9月29日付障発第0929001号により、厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部から各都道府県あてに通知された「障害者自立支援法に基づく補装具の種目、購入又は修理に要する費用の額の算定等に関する基準に係る完成用部品の指定について」の中に記載されている完成用部品。



完成用部品データベースシステム 部品情報詳細(膝継手の見本)

義肢装具等完成用部品情報提供システム

TOP画面に戻る
文字サイズ: 大 中 小

— 部品詳細 —

■ 部品情報詳細
印刷

← 一覧に戻る
更新日: 2008/01/07

会社名 (株)高崎義肢

部品コード 000009

> メーカー(輸入事業者)名	(株)高崎義肢	
> 製品名	両足ブレーキ膝	
> 使用部品	高崎 TGR01	

製品概要

> A. 義肢・装具等	骨格構造表膝	
> B. 区分	義足用部品	
> C. 名称	1. 膝継手	2.
> D. 型式	1. B 安全膝	2.
> E. 価格	79,100 円	
> F. 製造メーカー		
> G. 販売開始年月	昭和	52 年 04 月
> H. 指定年月		00 年 00 月
> I. 販売中止年月		00 年 00 月

> 部品構造図

> 組立・加工後の写真

- > 対象 両足、短膝用、意匠は新開発の40kg用者。
- > 構造 義足に体重を負荷したとき、揺動軸が微小に回転して、この機構により、主軸がフラットな全周型ベアリングによって強く把握され、膝が固定される。調整ネジは雄針。
- > 作用 体重負荷時には固定部のように動き、体重が軽くなるに運動部として回転する。
- > 効果 固定部より歩行時の外観が良く、しかも体重負荷時には完全に支持が得られる。
- > 材質 A201 7B, A2024B, 焼き入れSUS440C, 国産高摩耗入り高力合金主軸鋼材, チルリンキー, 焼青鋼揺動軸鋼材, ステンレス揺動軸。
- > 寸法 110×58×46mm
- > 重量 610g
- > 保証期間 3年間
- > 組立・加工方法 多くの場合テンターブル、十字ドライバー、アダプタを用いてソケットと結合する。
- > 調整方法等 前方のチルリンキー部にブレーキ調整ネジを挿め込むと、ブレーキの利度が強くなる。後方の焼鋼製反角ウレタンボールを抜いて、ウレタンボール上に乗ると、体重負荷に対する応答が弱くなり、右に下げると強く負荷してもブレーキが利りやすくなる。体重と歩き方によって少しずつ調整を行う。
- > 適応体重と活動レベル 体重制限80kg、活発な歩行に対応する。
- > 使用条件 気温-20℃～+50℃、一般的な歩行に使用する。
- > 注意・禁忌事項 高所、危険箇所、水中使用は禁忌。
- > パンフレット
- > 備考 ベアリングの許容量が大であり、耐衝撃義足に使用すると部品の耐久性が非常に増す。この時はブレーキの利度を弱くする。

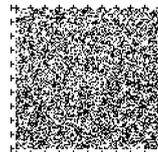
> お問い合わせ先

株式会社 高崎義肢
 群馬県足尾市井野町1-2-25
 TEL: 027-361-2074
<http://www.takasakihl.com>

← 一覧に戻る
印刷

▲ PAGE TOP

Copyright 2007 Association for Technical Aids, Inc. All rights reserved.



都会の廃校におもちゃ美術館

： NPO法人日本グッド・トイ委員会

： 理事長 多田 千尋

小学校は建築遺産だった

「平成19年の3月、神宮外苑の杜近く、100年の伝統を持つ四谷第四小学校がその役割を終えます。戦災を免れた貴重な建築遺産でもある校舎が来春に向け『東京おもちゃ美術館』に生まれ変わろうとしています」

これは、私が理事長を務めるNPO法人日本グッド・トイ委員会が、新しいおもちゃのミュージアムを開設する為の設立基金を集めるためのパンフレットの前文である。

昭和8年に木造校舎が火災にあい、その翌々年に当時の東京市が威信をかけて造り上げたモデル校だ。当時の校舎の建築物としては珍しい鉄筋コンクリートの建物で、東京市は建築をドイツ人設計士に依頼した。3.5メートルを越える天井に、各



フロアの踊り場が教室一つ分はあるのではと思わせるゆとりスペース。保健室では歯科の診察設備まで整い、職員室にはレトロな家具調度品が備え付きで、耐火金庫も壁にはめ込まれている。戦前では珍しいプールも備わり、現代では常識の体育館に変わり、講堂が造られていた。さらに住民たちの寄付により、当時の価格で1万円のピアノ

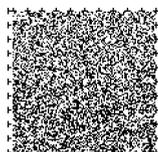
もあり、校舎の総工費が23万円であることと比較すると、いかに高価な贈り物であったことがうかがい知れる。

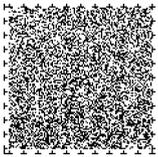
戦前の最盛期には1000人を超える生徒数を誇っていた。付属の公立幼稚園



も東京の幼稚園史に残るほどの伝統園で、明治・大正期には人力車で通う園児も少なくなかったし、お付の人が控える間も用意されていたほどだった。しかしながら、昭和から平成に入り、100名を下回る年も続き、行政側からの統廃合問題も幾度となく浮上することが多くなっていく。

桂小三治師匠など、数多くの同窓生を持ち、わが子のように校舎を想う地元住民にとっては、小学校が閉校になることは我慢できても、この歴史的建造物である校舎だけは守り抜きたいといった思いは強かった。地元四谷住民の新宿区への陳情から始まり、住民協議会の組織化によって、閉校後の学校をコミュニティセンターとして残すことが濃厚となった。しかし、校舎の管理・運営や教室の活用方法の検討を重ねるうちに、住民たちにとって「学校はあまりにも大きすぎる」といった懸念がよぎるようになる。そのようなことから、地元住民は仲良く付き合えるNPO法人と交流し、しかも





賑わいも取り戻せる機能をもたせることはできないかといった延長線上で、おもちゃ美術館の誘致となった。

おもちゃ美術館とは何か

そもそも、おもちゃ美術館とはどのようなものだろう。今は亡き、私の父が昭和58年に東京の中野に民間の芸術教育研究所の付属施設として創設したもので、今年で四半世紀を迎える。子ども連れの家族や幼稚園・保育園の団体、中学校・高校の修学旅行生、おもちゃ研究の学生などが利用する施設で、今まで累計で15万以上の人々が訪れた。昭和30年代から収集し始めた世界100各国15万点の玩具資料を展示やプレイコーナーにふんだんに活用してきたが、ガラスケースに貴重な玩具を陳列する博物館然としたミュージアムは目指さず、入館者とおもちゃの仲人役をスタッフが務める施設にしたかった。

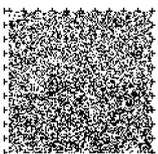
そして、平成18年に、NPO法人日本グッド・トイ委員会に「おもちゃ美術館」の運営・管理の業務譲渡をし、新宿四谷への移転後は同法人にとっては大きな社会的事業の柱となる。



おもちゃのまち あか

昭和50年代から60年代の当時、子どもたちは、「おもちゃは買うもの」といった風潮が強く、自らの手で作り出すといった経験が大きく不足していた。そこで、子どもたちに物づくりの楽しさを体感させる絶好の題材としておもちゃに注目し、

入館者全てが手作りおもちゃの指導を受けられる環境と人材を整えた。目の不自由な子どもたちの団体も、



手作り指導

牛乳パックやラップ芯を使った手作りおもちゃの活動を楽しんだ。

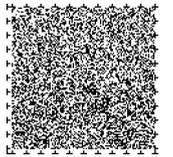
平成時代になると、高度成長時代を支えたエンジニアや機械整備士が続々と定年退職し始める。シニア層の知恵と技を子どもたちに還元できないかといった思いから、「おもちゃ病院」の開院を進めた。壊れたおもちゃをたちどころに直してくれるドクターたちは、子どもたちにとって命の恩人だ。こうした動きはシニアの生きがい活動とも重なって、会員数500人を越えるおもちゃ病院協会の組織化となっていく。

また、近年、子育て支援の必要性が盛んに叫ばれるようになると、おもちゃライブラリーに脚光が集まる。図書館で絵本を借りるように、おもちゃを無料で自宅に持ち帰られるサービスに親たちは飛びついた。ハンディキャップを持つ子どもの親たちも、おもちゃコンサルタントから適切なアドバイスも受けられるので、足しげく通う方々が多かった。

このように、おもちゃ美術館は、時代とともに、子どもたちに視線を合わせて新陳代謝を繰り返してきたのである。

戦前の校舎に「おもちゃ美術館」をつくる

都会のど真ん中、四谷に新しく創設した「東京おもちゃ美術館」は、教室12室分の面積を持ち、現在よりも10倍の広さとなった。おもちゃ美術館構想の強力なプレーンとしては、青森県の舞の海相撲記念館や鹿児島県の国木田独歩館も手がけるミュージアムプロデューサーの砂田光紀氏と象設計事務所を独立後、千葉県船橋市立子ども美術



館の設計を手がけた池田正一氏にお願いした。また、内装工事については、青森県木工玩具企業組合「わらはんど」に係わってもらう。筆者とは長年の付き合いで、腕の良い家具職人のグループである。新たな物づくりの取り組みとして木工玩具を目指し、アドバイザーとしてたびたび青森を訪れたことによって親交が深まった。

館内には、過去20年間、250前後の「グッド・トイ」選定玩具の常設室を初めて作った。世界のユニバーサルトイやハンディキャッパーがつくったおもちゃも手にとって遊べる。

旧音楽室に木工玩具をふんだんに集め、「おもちゃの森林浴」を味わえる楽しさと癒しの空間を考えた。ヒノキやスギ、ブナ、ナラの木の手触りやにおいを大いに堪能できる。旧家庭科室は手作りおもちゃ工房をおき、江戸時代のからくりおもちゃから牛乳パックや割り箸などを活用したりサイクル手作りおもちゃなどを豊富に作れるようにした。最上階の一般教室2部屋を使ったおもちゃの町は大小さまざまな小屋が建ち、一種独特な屋台村のような雰囲気がする空間だ。世界の独楽や、クーゲルバーン、万華鏡、積木など様々なおもちゃで遊ぶことも出来る。

館内には「おもちゃ病院協会」の本部も置かれることから、全国に誇れるくらいのモデル病院も

設置する予定だ。さらに世界のおもちゃの企画展も実施でき、ファミリーゲームやボードゲームも自由に堪能できる機能も整える。そして、2階には「メイド・イン・ジャパン」にこだわったセレクトショップがある。おもちゃ作家・職人の作品、それにおもちゃコンサルタントの力作などをそろえたミュージアムショップを置くことで、おもちゃ本来の関心事でもある「購入」についても配慮しようと思っている。

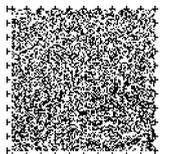
但し、これらの環境を管理運営していくためには、1日10人のボランティアが必要となる。そこで平成19年の秋から「おもちゃ学芸員」というボランティア養成事業を立ち上げ、年間3000人分のマンパワーの確保を目指した。

そして、おもちゃのミュージアムとしては、かなり巨大になることから、新たに二つの視点を付け加えた。

第一に、多世代による参画型ミュージアムの創設だ。中高生の仕事体験、大学生とのインターンシップやシニアボランティアの育成を通じて、入館する美術館から参加する美術館を目指したい。また、近い将来、ハンディキャッパーの方が関わられる就労支援の形もデザインしていきたい。

第二に、子育て中の親や祖父母を対象とした三世代子育て支援ミュージアムを進めていきたい。親世代やシニアに、子どもと楽しむ知識や演出力などを、身につけてもらおうと考えている。ハンディキャップを持つ子どもには、豊かなユニバーサルトイも必要だが、さまざまな子どもたちと楽しむスキルといった「遊びのソフト」も必要だ。遊び主導の子育ては、いかなる親の心をも穏やかに健やかに育てるはずだと思っているからだ。おもちゃの力を借りた遊び子育ての楽しさをお裾分けできる美術館でありたい。

こうしたメッセージをもとに、私たちは「東京おもちゃ美術館」を多世代交流の館とも呼んでいる。子どもも楽しめ、お年寄りも自己実現が果たせる仕組みを、このミュージアムでチャレンジしていきたいと考え、ただいま奮闘中である。



ゲームのへや入口

第23回 障害者による書道・写真全国コンテストのご案内

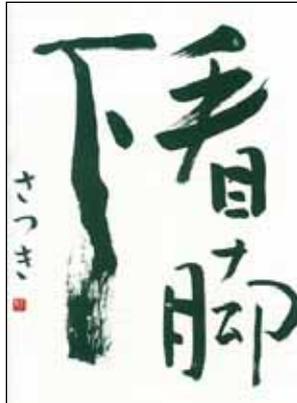
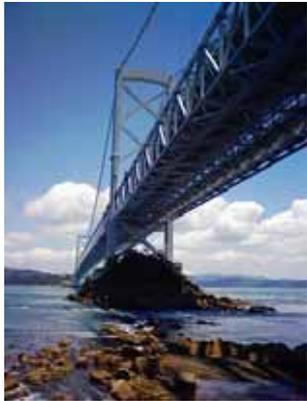
財団法人日本障害者リハビリテーション協会・全国身体障害者総合福祉センター(戸山サンライズ)では、障害をもつ方々の教養文化事業の一環として「障害者による書道・写真全国コンテスト」を実施しています。

このコンテストは、障害者の文化・芸術活動の促進と技術の向上、また、それらの活動を通じた積極的な自己実現と社会参加の推進を目的に、1986年から行っており、書道と写真という、どなたにも親しみやすい素材を題材に、毎年全国からたくさんの作品が寄せられています。昨年度のコンテストには総数1,070点のご応募があり、2年連続で1,000点を超えるご応募をいただきました。

第23回コンテストでは、昨年度から開始した携帯電話を使った「携帯フォトの部」も引き続き実施いたします。皆様の周りで見つけた出来事や日常の場面など、お気軽にご応募ください。

今回も多数のご応募をお待ちしております!!

(第22回
コンテスト入賞作品)



主催：財団法人 日本障害者リハビリテーション協会

実施：全国身体障害者総合福祉センター(戸山サンライズ)

協力：各都道府県・指定都市障害保健福祉関係主管課 / 各都道府県・指定都市応募取りまとめ等協(予定) 力機関 / 財団法人 毎日書道会

後援：株式会社 福祉新聞社 / 障害者福祉センター等全国連絡協議会 / 社会福祉法人 日本身体障害

(予定) 者団体連合会(中央障害者社会参加推進センター) / 社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会 / 財団法人 日本知的障害者福祉協会 / 社会福祉法人 全国精神障害者社会復帰施設協会

各都道府県・指定都市における応募取りまとめ等協力機関につきましては、コンテスト事務局までお問い合わせください。

なお、当センターHP上にも情報を掲載しておりますので、ご覧ください。

URL : <http://www.normanet.ne.jp/~ww100006/contest>

【携帯フォト応募用QRコード】



(NTT docomo用)

【審査結果発表用QRコード】

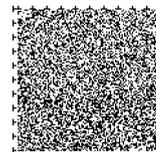


(審査結果速報用)



(au・softbank用)

第23回 障害者による書道・写真全国コンテスト応募要項



応募資格：「身体障害者手帳」「療育手帳」「精神障害者保健福祉手帳」のいずれかの交付を受けている方。
但し、当コンテスト各部門において3回以上入賞されている方は対象外とします。

募集内容： 書道部門...題材は自由です（硬筆・毛筆とも可）。

写真部門...フリーの部（題材は自由です）

ポートレートの部（人物を題材とした作品が対象となります）

携帯フォトの部（携帯電話のカメラ機能を使ってご応募ください。題材は自由です）

応募は各部門1人1作品まで（書道と写真双方の応募は可）とさせていただきます。

写真部門は、フリーの部・ポートレートの部・携帯フォトの部から1つの部を選んで応募してください。

作品サイズ： 書道部門 半紙サイズ(約33.3 cm×24.0 cm)、硬筆はA4サイズ(約21.0 cm×29.7 cm) **タテ・ヨコ自由**

写真部門 四つ切サイズ(約25.4 cm×30.5 cm)、四つ切ワイドサイズ(約25.4 cm×36.5 cm)

デジタルカメラ作品の場合はA4サイズ(約21.0 cm×29.7 cm)も可 **タテ・ヨコ自由**

なお、携帯フォトの部は審査の関係上、画像サイズは**VGA(640×480ピクセル)**以上
でご応募ください。

その他、詳しくは『携帯フォトの部に関するお願い』をご参照ください。

応募方法： 応募用紙に必要事項をご記入の上、作品を添えて各都道府県・指定都市の応募取りまとめ等協力機関（以下、協力機関）にご提出ください。協力機関につきましては、全国コンテスト事務局までお問い合わせください。

全国コンテスト事務局への個人での直接応募は審査の対象外とさせていただきますのでご注意ください。

なお、携帯フォトの部につきましては、応募用メールアドレス（contest@abox3.so-net.ne.jp）へのご応募となりますのでご注意ください。メール本文にお名前・年齢・ご住所・電話番号・障害種別・作品タイトル・作品PRを入力の上、作品を添付し送信してください。

前頁のQRコードからもご応募いただけます。（携帯事業者によって応募いただくためのQRコードが違いますのでご注意ください）

応募締切日： 都道府県・指定都市により締切日が異なりますので、直接協力機関にお問い合わせください。

入賞点数： 書道部門...金賞10点、銀賞15点、銅賞25点程度を選定します。

写真部門...フリーの部

ポートレートの部

金賞10点、銀賞10点、銅賞20点程度を選定します。

携帯フォトの部...入賞5点程度を選定します。

入賞点数は作品の応募点数によって変更させていただくことがあります。

審査結果： ・平成20年11月下旬に協力機関宛に通知いたします。

入賞者ご本人へは、平成20年12月9日（障害者の日）にあわせ、入賞のお知らせならびに賞状、記念品を送付いたします。

・福祉新聞紙面での発表を予定しております。（平成20年12月・平成21年1月発行号に掲載を予定）

・**希望者のみ**、郵送による審査結果の通知をいたします。（平成20年12月15日頃を予定）

ご希望の方は、結果送付先のご住所・お名前を明記の上、封筒に80円切手を同封し、「全国コンテスト事務局」までご郵送ください。

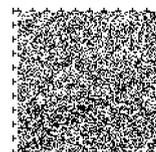
・携帯電話専用ホームページにて審査結果を発表いたします。（平成20年12月15日頃を予定）

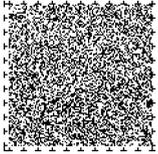
前頁のURL又はQRコードにて携帯電話専用ホームページにアクセスし、結果をご覧ください。

http://www.normanet.ne.jp/~ww100006/index/contest_mobile.html

結果は当センターホームページ上でも発表いたします。

<http://www.normanet.ne.jp/~ww100006/index.htm>





入賞作品の館内展示等：

- ・全国身体障害者総合福祉センター（戸山サンライズ）館内において入賞作品の展示を行います。
- ・コンテストの入賞者、入賞作品、審査員総評等は当センターホームページおよび情報誌「戸山サンライズ」に掲載いたします。

【コンテスト全般に関するお願い】

作品のご応募は各部門1人1作品まで（書道と写真双方の応募は可）とさせていただきます。

ご応募いただいた作品の返却は原則としていたしません。

作品の制作年月日は問いません。但し、他のコンテスト等に未応募のものに限ります。

ご応募いただいた作品の著作権は制作者ご本人に帰属しますが、当コンテスト事業の一環として行う審査・審査結果の発表及び広報のための印刷・展示・放送（インターネットを含む）等における使用权は、当センターに帰属するものとします。

作品は素材のみに限ります。パネル・額縁・表装等をした作品は審査対象外とさせていただきます。

公序良俗に反する表現につきましては、コンテスト事務局の判断で審査対象外とする場合がありますのでご了承ください。

ご応募いただいた方の個人情報はコンテスト事務局が責任を持って保管し、当コンテスト以外の用途に使用することはありません。

【書道部門に関するお願い】

利き手側の上肢に著しい障害のある方については、規定サイズ外の作品応募も受け付けますので、事前に事務局へご相談ください。

規定サイズの範囲内であれば、用紙の種類は問いません（色紙も可）。

作品は折り曲げずにお送りください。

【写真部門に関するお願い】

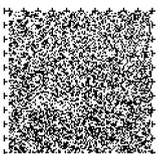
人物・美術品・写真等の著作物もしくは肖像を作品に使用される場合、あらかじめ著作者・所有者や被写体となる方等から使用許諾・承諾を得た上でご応募ください。仮に第三者から権利侵害、損害賠償等の主張がなされたとしても、当センターは一切の責任を負いかねますので、ご注意ください。

組写真は不可とします。

携帯フォートの部に関するお願い

- ・募集作品は、カメラ付携帯電話で撮影した写真のみです（他の機器で撮影したものや加工したものは無効）。
- ・作品は審査の関係上、必ず画像サイズを**VGA（640×480ピクセル）**以上に設定して下さい。それ以下のサイズの作品は審査の対象外となりますのでご注意ください（設定方法についてはお持ちの携帯電話の説明書をご確認ください）。
- ・お1人1点のご応募とします。作品の差し替えは行いません（複数のご応募があった場合は、最初に届いたものを審査対象とし、以降届いたものにつきましては審査の対象外とします）のでご注意ください。
- ・ご応募は無料ですが、別途パケット料金（通信料金）が発生しますのでご注意下さい。
- ・携帯フォートの部に限り、コンテスト事務局より**作品受領のメール**をお送りします。応募後3日以内に作品受領のメールが届かない場合は、お手数ですが、コンテスト事務局までお問い合わせください。

平成20年8月15日(金)～17日(日)は当センターの休館日となります。この期間はお問い合わせや作品受領メールの送信などが行えませんのでご了承ください（作品はご応募いただけます）。



【作品の応募等コンテストに関するお問い合わせ先】

全国コンテスト事務局

TEL:03-3204-3611 FAX:03-3232-3621 E-mail:contest@abox3.so-net.ne.jp

「第23回 障害者による書道・写真全国コンテスト」応募用紙

注： 印の付いた項目は入賞時に公表させていただきます。

フリガナ ※氏名	男 ・ 女	※年令 才	※応募部門	書道部門 写真部門	応募される部に○をつけてください ↓ フリーの部・ポートレート部
ご住所	〒		TEL FAX		
※作品の題名	※制作年月日		年	月	日
障害者手帳の種類と等級 (手帳に記載されている とおりに記入してください)	身体障害者手帳	障害名 ()	級		
	療育手帳	(障害の程度)			
	精神障害者保健福祉手帳	(障害の程度)	級		
※入賞時に掲載する 障害の種類	肢体不自由・内部障害・視覚障害・聴覚障害・音声言語機能障害・知的障害・精神障害・その他 ()				
注：入賞時に展示会等で公表可能な方は、該当箇所に○をつけてください (複数可)。公表不可の方は記入なしで構いません。					
※作品制作時の状況・工夫・作品のPR等、参考になる事項があればお書きください。(書道部門・写真部門いずれの応募者の方もご記入 ください。書道部門で、古典作品等の意味などがわかりでしたら、解説もお願いいたします。)					
※写真部門 参考データ	撮影地	使用カメラ (メーカー・機種名)	使用フィルム	絞り/露出	シャッタースピード
協力機関名				f / ±	1 / 秒

●応募の際は、この用紙をコピーしてご使用いただけます。

全国身体障害者総合福祉センター(戸山サンライズ) 刊行物・制作DVDのご紹介

全国身体障害者総合福祉センター(戸山サンライズ)において、昨年度までに
刊行・制作したハンドブック・マニュアル・DVDをご案内いたします。

いずれも送料のみのご負担でお手元にお届けします。

興味をお持ちの方は当センター養成研修課までお問い合わせください。

電話:03-3204-3611 ファックス:03-3232-3621

障害者のレクリエーション活動ハンドブック

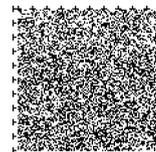
レクリエーションの普及・援助体制の整備をめざし、よりよく生きるためのレクリエーションを生活に根づかせていく。障害者レクリエーション援助に携わる方々に、人材育成や障害をもつ方々の豊かな生活の実現に向けてご覧いただきたい一冊です。(2007年3月発行 東電生活協同組合助成事業)



自立支援協議会の運営マニュアル

障害者自立支援法の施行に伴い、各地方自治体に設置が義務づけられた地域自立支援協議会。その立ち上げから円滑な運営を行うためのマニュアルを2008年3月に刊行いたしました(2008年度厚生労働省自立支援プロジェクト事業)。





働くことは生きること ～障害のある人たちの就労をめざして～

支援を受けながら、自分の足でしっかりと立ち、職場の戦力として働いている人たちは数多くいます。彼らを支える機関や支援者は、戸惑いや課題をどのように乗り越えて支援の仕組みを築いてきたのでしょうか？

そこにはどのような姿勢や考え方があったのか…。事例を通して考えていきます。(2008年3月 東電生活協同組合助成事業)



これらの制作物には、数量に限りがございます。
在庫切れの場合は、ご了承ください。

戸山サンライズ (通巻第239号)

発行 平成20年6月10日 (隔月10日発行)

発行人 (財) 日本障害者リハビリテーション協会
会長 金田一郎

編集 全国身体障害者総合福祉センター
〒162-0052 東京都新宿区戸山1-22-1
TEL. 03(3204)3611 (代表)
FAX. 03(3232)3621
<http://www.normanet.ne.jp/~ww100006/index.htm>

編集後記

今号は直前に迫った北京パラリンピックや大分県で開催される全国障害者スポーツ大会の準備状況などを4人の方々にご執筆いただきました。大会に関わる全ての皆さんの力によって、熱い戦いが繰り広げられることを今から楽しみにしています！

また、お知らせのページにも要項を掲載いたしました。今年も書道・写真全国コンテストを開催いたします。スポーツの大会にも負けない熱い作品をお待ちしております!! (廣田)

